

輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部
 編集： 輸血部長 藤井輝久
 内容に関するお問い合わせ：

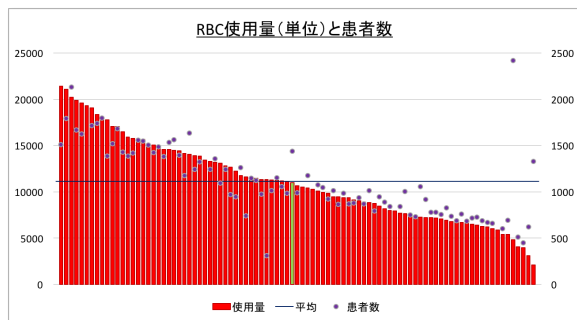
5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

本院の輸血用血液使用量は？～今年の大学病院輸血部会議の資料から～

平成 29 年度全国大学病院輸血部会議が、10 月 11～12 日に大分市で開催されました（主管校：大分大学）。例年この会議に合わせて、全国の大学病院輸血部（計 95 施設、国公私立、分院含む）に対し業務量アンケート調査が行われ、その内容も発表されました。本院は他大学病院に比べてどの位置にあるのか、大変興味深い資料になっていますので、みなさんにお知らせします。なお、紙面の関係上、この度は輸血用血液（アルブミンも含む）使用に関してのみとさせていただきます、その他は次号に掲載する予定です。

1. 赤血球製剤

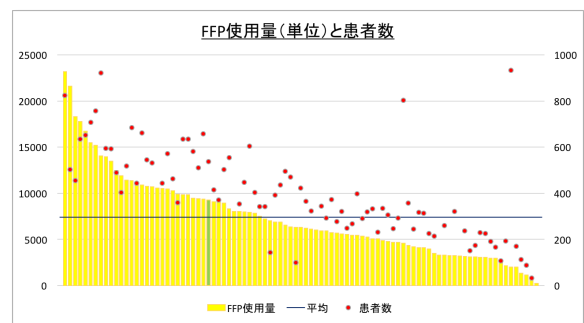
2016 年に、大学病院全体で 95,805 人の患者に対して 1,035,532 単位の輸血がされています。大学病院の平均使用量は 11,135 単位であり、本院は 11,003 単位、全体の 46 位の使用量でした（グラフ内棒が使用量(左軸)、点が患者数(右軸)、緑の棒が本院、横線が平均値、以下同)。なお 1 位は大阪大学医学部附属病院でした。



2. 血漿製剤（FFP）

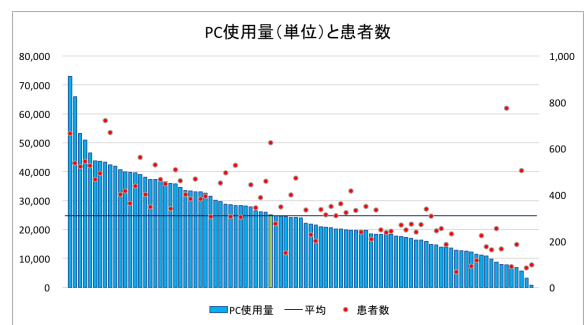
全体で 34,736 人に対して 687,750 単位が

使用されていました。大学病院の平均使用量は 7,395 単位であり、本院は 9,260 単位、全体の 29 位の使用量でした。1 位は東京女子医科大学病院でした。



3. 血小板製剤

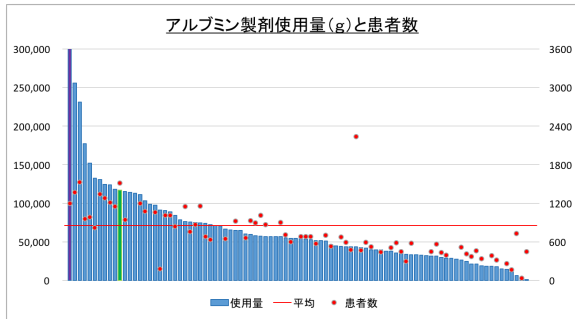
全体で 30,367 人に対して 2,848,241 単位が使用されていました。大学病院の平均使用量は 24,714 単位であり、本院は 25,060 単位、全体の 41 位の使用量でした。1 位は九州大学病院でした。



3. アルブミン製剤

アルブミン製剤は、まだ薬剤部管理の病院も多いため、正確な患者数は不明です。全体では 6,521,197g が使用されていました。本院は 117,198g で全体の 11 位でした。なお全国第 1 位は、東海大学医学部附属病院の 809,970g で、2 位の東京大学医学部附

属病院の 255,781g を大きく引き離していますが、例年までの使用量を考えると、89,970g の間違いと思われる。となると本院は全体の 10 位になります。



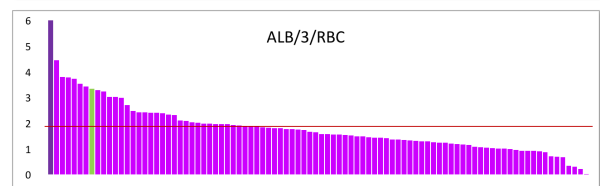
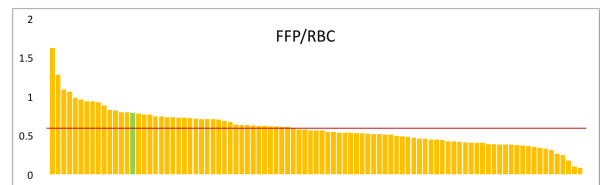
ここまで見ると、本院は他院に比べて FFP やアルブミンの使用量が多いことが分かります。しかし、3 年間の使用量と順位の変化を見ますと、FFP(単位)は 9,676(19 位)→11,714(17 位)→9,260(29 位)、アルブミン(g)は 144,159(8 位)→126,703(11 位)→117,198(10 位)となり、使用量は低下しています。しかし、アルブミンに関しては、全体の使用量の減少が本院を上回っており、順位が下がらない、と推察されます。

三学会合同特別討論会でフィブリノゲン製剤使用に対する提言が採択！

輸血部会議の翌日に行われました日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムの中で、三学会（日本輸血・細胞治療学会、日本産科婦人科学会、日本心臓血管外科学会）合同特別討論会「-フィブリノゲン製剤の適応拡大の条件は何か-」が開かれました。本学客員教授で参議院議員でもある秋野公造先生を含む 7 名の演者が登壇し、その後の総合討論を経て右の提言が採択されました。

この提言をもって、現在「先天性フィブリノゲン欠乏症」のみ適応を取得しているフィブリノゲン製剤の使用が承認された訳ではありません。しかし、現在適応

本院は、輸血管理料の適正使用加算（輸血・アルブミン使用患者 1 人につき、120 点/月）が取得できていません。その理由は、FFP/RBC 比が <0.54 、Alb/3/RBC 比 <2.0 （いずれも年間で計算）が達成できていないからです。



特に Alb/3/RBC 比は、大学病院平均値が 1.87 と適正使用加算取得の条件を軽くクリアしています。

診療科におきましては、こういった情報をご参照の上、より一層適正な輸血、アルブミン使用を推進していただきますようお願い申し上げます。

外使用している状況は医学的に正しい、といったお墨付きをもらったと言えるでしょう。ですから、この提言は症状詳記における資料になり得ますし、今後適応拡大に拍車がかかることが期待されます。

提言

羊水塞栓症、弛緩出血、常位胎盤早期剥離、大動脈瘤手術、心臓再手術による凝固障害のために止血困難が認められ、フィブリノゲン値が 150mg/dl を切る場合に、フィブリノゲン製剤の投与が必要である。